



まつざき真琴

県議会ニュース

日本共産党

鹿児島県議会ニュース
2013年2月10日号
大飯原発視察特集

発行／日本共産党鹿児島県議団 〒890-8577 鹿児島市鴨池新町10-1
★TEL/FAX 286-3977 E-mail kengidan@jcp-kagoshima.com HP <http://jcp-kagoshima.com>
★ブログ まこっちゃんのいっぺこっぺ奮闘記 <http://matsuzakimakoto.synapse-blog.jp/>

県議会の原子力安全対策等特別委員会では、1月29日～31日に、関西電力大飯原発の再稼働に関連して、福井県に視察に行きました。



警戒が厳重な大飯原発入口



●福井県庁

安全環境部 危機・対策防災課長と原子力安全対策課長から、おおい原発の再稼働をめぐるの県や県議会の対応などについて説明を受けました。

担当者の発言から「福井県は原発の推進ではないか」指摘をしましたが、それに対しては、「原発推進ではない。」と言い切りました。

しかし、当日、県知事から安倍晋三首相への「要請書」が提出されています。(写真) その内容は、「2030年代原発再稼働ゼロ」の見直し、「もんじゅ」の予算・人員の強化と福井県での展開を図ること、など。どう考えても、福井県自体が、原発推進です。

また、再稼働にあたっては、住民や市民団体から「県民の意見を聞く場を持ってほしい」という声が寄せられていましたが、実際は、県民の意見を直接聞くことはしなかったことが分かりました。



●日本原子力研究開発機構

原子炉廃止措置研究センター（ふげん）

「ふげん」は、2003年に運転を終了し、2008年から廃止措置が行われています。

放射能のレベルの低いものから解体が行われていく計画で、現在、タービン建屋の方から解体作業が行われています。今後、原子炉格納容器も含めて、放射能レベルが高いものの処分がされていきますが、処分の方法や場所は決まっています。

●日本原子力研究開発機構

高速増殖炉研究開発センター（もんじゅ）

「もんじゅ」は、核燃料サイクルの計画として、MOX燃料（プルトニウム・ウラン混合酸化物）を使用し、消費した量以上の燃料を生み出すことのできるとされている高速増殖炉の実用化のための原型炉ですが、1995年にナトリウム火災事故を起こし、その後運転を開始しましたが、その直後にまた事故を起こし、停止した状態になっています。

原発ゼロをめざすのであれば、核燃料サイクル自体が不要であり、「もんじゅ」も廃炉措置へと踏み出すべきです。

●おおい町役場

おおい町は、人口8,700人ほどの自然豊かなまちです。町長さんのお話では、「過疎のまちの地域振興策として原発を選択した」ということでした。1号機運転開始から34年が経過し、大飯原発には1号機から4号機まで、4基の原発があります。原発の交付金に頼ったまちづくりや雇用政策が進んできました。

原発ゼロを実現するためには、このような原発頼みの地域の在り方を見直さなければなりません。国策として原発を推進してきた国の責任は大きいものがあります。国の責任で、原発ゼロに向けた原発立地自治体の経済対策、雇用対策が必要です。

●関西電力・大飯原発

まず、大飯原発PR館で、「1/3ワールド」（原子炉の1/3の模型）で、原発の仕組みを説明する映像を見ました。その後、会議室で副所長からの説明を受け、構内の見学を行いました。映像でも、説明でも、原発は「とめる」「ひやす」「とじこめる」で安全だという話が繰り返され、新たな「安全神話」が振りまかれていると感じました。

◆視察を終えて◆

福島第1原発事故の影響で、いまだに16万人が避難生活を余儀なくされています。事故の現場では、原因の究明どころか、立ち入ることも危険で、メルトダウンした核燃料を冷やし続けることもままならず、放射能に汚染された汚染水が漏れ出し、海は汚染され続けています。

私たちは、常に福島原発事故の現状に立ち返り、原発の危険性と向き合い、人類としてどういう選択をすべきであるのか、しっかりと考えるべきです。

この視察を通して、原発ゼロへの道は課題は多いけれども、人類の知恵と力を出して、原発ゼロへ向けて、足を踏み出すべきだと感じました。



おおい町役場で質問する